



茨城ワイズメンズクラブ
2020年度-2021年度
11月報 Vol.147
強調月間テーマ

ワイズ理解・ファミリーファスト

**THE Y'S MEN'S CLUB OF
IBARAKI
CHARTERED 2006**



国際会長主題.....「命の川を信じよう」
アジア太平洋地域会長主題.....「変化をもたらそう」
東日本区理事主題.....「変化をたのしもう！」
関東東部部長方針.....「学びと親睦を糧に外へ向かおう！」
茨城ワイズ会長主題.....「楽しくやれる方法を考えよう」

<11月例会プログラム>

と き:2020年11月6日(金)
19:00~21:00

と ころ:筑波学園教会教育会館1F
(オンライン開催の可能性あり)

司 会:熊谷 光彦

開会挨拶と点鐘:熊谷 光彦

ワイズソング:

ワイズ信条:

- 1、自分を愛するように
隣人(りんじん)を愛そう
- 1、青少年のためにYMCAに尽くそう
- 1、世界的視野をもって
国際親善をはかろう
- 1、義務を果たしてこそ
権利が生ずることをさそう
- 1、会合には出席第一
社会には奉仕第一を旨としよう

今月の聖句・食前感謝:

協 議:

サイクリングイベント報告

11月チャリティーイベント計画 他

ハッピーバースデー&

おめでとう結婚記念日:

スマイル:

茨城YMCA報告:大澤 篤人

閉会挨拶と点鐘:熊谷 光彦

★巻頭言★「神の国はどのようなところ？」

茨城YMCA牛久センター長 藤井洋太

主の御名をたたえます。ネスくんこと藤井洋太です。茨城YMCA牛久センター長を務めております。

茨城YMCAに入職して5年が経ち、様々な重荷を負うようになってきたところですが、結婚からはまだ10ヶ月と慣れないながら幸せな新婚生活を謳歌しております。

経営面では負担をかけ続けてきた牛久センターではありますが、開始して6年目となり、小規模保育施設「牛久オリーブ保育園」の開園や児童クラブ参加者の増加に伴い、ようやく光が見えてまいりました。恵みにただ感謝です。

さて、先日牛久の児童クラブで女の子たちが興味深いごっこ遊びをしていました。「なんのごっこなの？」と聞くと、キャスター付きの椅子に座っている2年生をさした4年生が「この子障がい者なの！」と元気に返事をしたのです。彼女曰く「身体は小学生なのだけれど心は3歳程度、歩くことはできなくて車いすを利用している設定」とのことでした。その言葉を聞いた時、私の心はあまりの衝撃に数秒間沈黙したのを覚えています。

私はしばらくどうしたものかと思案したのち、障がいがある人はもちろん、他の人たちが見た時の気持ちを静かに伝え、彼女たちにやめさせました。しかし、本当にそれでよかったのでしょうか。皆様はこの子たちのこの遊びをどうとらえますか。

いつも私を支えてくれる重度身体障がい者でもある私の愛する妻に相談してみたところ彼女は異なる答えをもらいました。「そんなごっこ遊びをするなんて、子どもたちにとって障がい者が身近になっている証拠だね、ありふれた当た

☆今月の聖句☆

同じ思いとなり、同じ愛を抱き、心を合わせ、思いを一つにして、わたしの喜びを満たしてください。

フィリピの信徒への手紙2章2節

り前の隣人として認めてもらえているんだね。」
 というのです。私がなぜ赤ちゃんやワンちゃん
 はよくて、障がい者のごっこ遊びは「ダメ」だ
 と感じてしまったのか（もちろん明らかにバカ
 にした遊びなら違ったでしょうが）、そのことは
 自分自身を大いに振り返る機会となりました。

単純な答えのある話ではないと思います。イエ
 ス様が仰った「子どもたちをわたしのところに
 来させなさい。止めてはいけません。神の国は、
 このような者たちのものです。(ルカによる福音
 書 18 章 16 節)」という御言葉が、ふと私の脳裏
 には浮かびました。改めて皆様はどうお考えに
 なれますか。

茨城 YMCA およびワイズメンズクラブの皆さ
 まの働きを通して、ますます神の国が広がって
 いきますように。

【茨城クラブ 10 月例会報告】

10 月例会は、前月に引き続き zoom を利用したオン
 ラインでの開催となり、ワイズメン 4 名が集いま
 した(ちなみに書記村田はまたもや仕事の都合で冒頭
 みの参加となりました)。



近況報告などの雑談を経て、10 月に開催予定のサイ
 クリングイベントについての詰め協議を、また茨城
 YMCA にて 11 月開催予定の障がい者支援活動への
 協力について協議いたしました。

10 月例会 (オンライン開催) 出席状況
 会員：5 名 (熊谷、稲本、柳瀬、村田)、メネッ
 ト：0 名、スタッフ：0 名、リーダー：0 名、
 ゲスト：0 名、出席総数数：4 名、在籍者会員
 数：9 名、会員出席率：44%

【関東東部大会報告】

関東東部大会は、千葉ウエストクラブの設立式 (認
 証状伝達式) とともに、10 月 3 日(土)に開催されま
 した。

茨城ワイズ会長は、10 月から GOTO キャンペー
 ンの東京除外が解除されたこともあり、久しぶりの
 TX (つくばエクスプレス) で秋葉原へ。会場の浅草
 橋ヒューリックカンファレンスまでは総武線を使わ
 ず徒歩で向かいました(約 800m)。

大会は、隣の席を空けて 60 名を超える参賀者が集
 う盛会でした。

関東東部柿沼部長から CS 事業への奨励金として
 各クラブの会長に、それぞれ金 3 万円が支給されま



したことに加え、昼食で出された「人形町 今半 す
 き焼き弁当」の美味しさに感激し、全員での記念撮



影の後、会場を後にしました。

(会長 熊谷)

【事務報告】

会計報告 (2020 年 10 月 2 日～11 月 5 日)

前月繰越金	36,942
送料(会員宛資料送付)	▲3,792
事務用品(封筒)	▲440
チャリティバザー準備	▲1,001
次月へ繰越	31,709

ワイズメンのみなさまにおかれましては引き続き
 会費の前納について、ご協力を賜りたく願います。

(会計 柳瀬)

【チャリティーサイクリング報告】

第2回と第3回のチャリティーサイクリングをそれぞれ10/17(土)と10/24(土)に企画・告知しました。残念ながら前者は悪天候(雨)のため中止に、後者は申し込み締め切りの日までの申込者がゼロでした。しかし、「このままでは終わらせないぞ」と実行委員長は10/22(木)夜のリーダー会に乗り込みました。春のスキーキャンプが暖冬雪不足で実施できなくなる場合に備えて一泊の霞ヶ浦一周サイクリング企画を検討していることを耳にしていたからでした。「明後日の土曜日、サイクリング引率の実地研修を兼ねてミニサイクリングに行こうよ」の誘いに、4名のスタッフ&リーダーが手をあげてくれました。

サイクリング当日は、前日が大雨とは思えないサイクリング日和の良い天気にも恵まれました。集合は9時半、オリエンテーションの後、それぞれの自転車の点検(サドルの高さ、ブレーキの利き具合、ハンドルの固定具合、タイヤの空気圧のチェック)を行って、10時に出発しました。

走行中には、グループの後続者へ合図するハンドサイン(落下物や駐車車両の回避、他の自転車や歩行者とのすれ違いと追越し、二段階右折、停車と再出発等)について確認していただきました。

その日午後のプログラムの予定がありながらも参

加してくれた2人のために、約9kmの周回コースを走って午前中に出発地点に戻りました。

残りのメンバーは、少し休憩しただけですぐに再出発、霞ヶ浦湖畔の「りんりんポート土浦(サイクリングキャンプのスタート予定地点)」を目指しました。そして約30kmの周回コースを走行して再び出発地点に戻り、無事解散となりました。

今回、本来のチャリティーサイクリングとしては実施できませんでしたが、参加者全員がサイクリングを楽しめたことが、嬉しく思います。

(実行委員長 熊谷)

追伸 リクエストがあり翌週の10/31(土)にも後

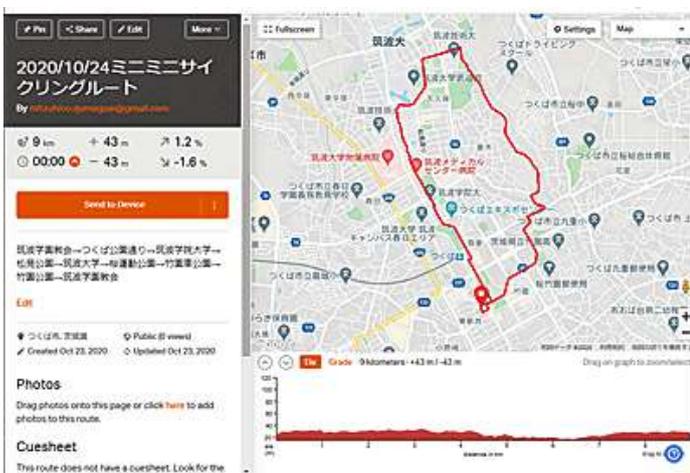


半のメンバーは50kmコースに出かけました。

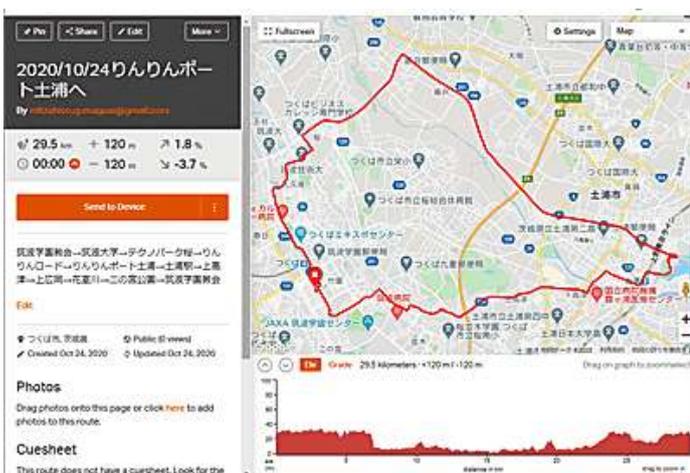
【茨城YMCA報告】

10月の報告

- 3日 水のデイキャンプ
- 5日 早天祈祷会
- 5日 主任会
- 9日 YMCA ブランド表出研修
- 10日 リソースモビライゼーションチームミーティング
- 12日 幼保園運動会
- 13日 国際ミーティング
- 14日 北関東YMCA 野外担当者会
- 18日 職員礼拝/職員会
- 18日 野事業運営委員会
- 21日 チャリティーラン・バザーミーティング
- 22日 牛久センター職員会
- 23-24日 東新井学童2/3年生お泊まり会
- 24日 牛久センターピアノ発表会
- 24日 障がい児者自立支援活動「たんぽぽクラブ」
- 24日 中高生デイキャンプクラブ「ユースクラブ」
- 24日 サイクリング引率実習サイクリング
- 26-29日 健康診断



前半の約9kmの周回コース



後半の約30kmの周回コース

- 28日 中期計画委員会
 28-30日 伴走サポート研修
 29日 インフルエンザ予防接種
 31日 サイクリング引率実習サイクリング

11月の予定

- 10/3-11/28 日本YMCA スタッフ研修ステップII
 参加（櫻井大樹）
 2日 早天祈祷会
 2日 子育て支援員研修
 7日 小学生デイキャンプクラブ「つくわい
 クラブ」
 9日- 障がい児支援バザー
 10日 主任会
 13日 県民の日
 14日 未就学児デイキャンプクラブ「わんぱ
 くクラブ」
 21日 高学年デイキャンプクラブ「トムソー
 ヤ」
 26日 インフルエンザ予防接種
 28日 障がい児者自立支援活動「たんぼぼク
 ラブ」

（連絡主事 大澤）

【編集後記】

茨城ワイズメンバーであり茨城YMCA総主事である宮田さんと久しぶりに電話で会話をしました。

お互いの拠点が神奈川と茨城ということもあり、リアルではもう1年近くお会いできていませんが、近況を報告しあい、コロナのなかでもなお茨城YMCAの活動を拓げようとしているそのバイタリティに感服しました。恥ずかしながら他の地区のYMCA職員の方の働きを拝見したことはないのですが、宮田さんは間違いなく全国のYMCAの中でも有数の事業家だと思います。

宮田さんだけでなく他のワイズメンバーとも、もう1年近く顔を合わせていないことになります。それでもzoomなどのツールを通じて、リアルの活動こそ減ったものの例年と遜色なくコミュニケーションができています。わたし自身、リアルで例会に参加している頃は終了後2時間半かけてほぼ終電で帰路についていた頃を思えば、体力的な負担もずいぶん減りました。

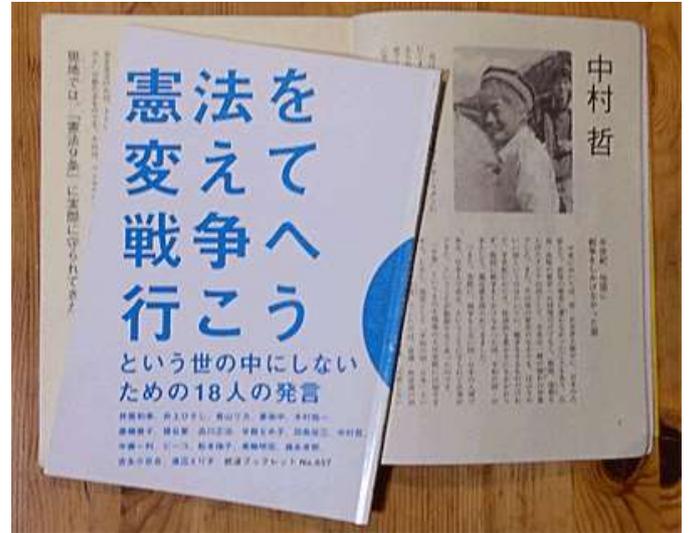
現在の茨城YMCAは、屋台骨の事業である学童保育は安定的に運営できていますが、野外活動は新型コロナウイルス禍の影響を大きく受けています。それでも、オンラインでの活動を企画し行ったり参加者の意向と感染防止策とのバランスをとったりしながらプログラムを組み替えてサービスの提供を続けています。とくに若いスタッフのみなさんが柔軟に対応し続けている姿には、本当に感服します。

どんなに世界が変わっても、YMCAができること

は残っていく、むしろますます付加価値を強めていくと信じています。

（書記 村田）

10月3日、浅草橋で行われた関東東部大会に出席させていただきました。出がけに「TX車内で何か読もう」と思い本棚を見たら、古いブックレットが目にとまりました。ちょうどよいボリュームだったのでそれを持って出かけました。



2005年の夏に発刊された「憲法を変えて戦争へ行こうという世の中にしないための18人の発言」という本でした。表紙タイトルが「憲法を変えて戦争へ行こう」の部分だけが大きな文字で「という世の中にしないための18人の発言」の部分が小さな文字なのでした。ガラガラの車内でこの本を持って読んでいると、なにやら視線を感じるのです。向かい側の若者は靴の紐を気にするふりをして表紙を覗き込んできました。他にも何度かチラリチラリと……。ちょうど下の小さな文字の部分が手で隠れてしまいます。だからもしかすると私は「なにやら危険な本を読んでいる怪しいおっさん」に見えていたかもしれません。

この本で最初に発言をしていたのはクリスチャンで医師の中村哲さん。それまでは「戦争をしない国の日本の人間」ということ（憲法9条）に守られて仕事できていたのが「なにやら雲行きが怪しくなってきました」と書いておられました。自衛隊の海外派遣が始まって、そのことに気づかされたのだそうです。実際、それは不幸にも的中してしまい2019年12月、アフガニスタンで銃撃され中村さんは亡くなりました。悲しい知らせでした。日本の憲法はぜひに変えてはいけないという気持ちを再度強くしたことを思い出します。10年以上も前に読んだはずなのに、そこに書かれていた他の皆さんの言葉もみな新鮮さを失っていませんでした。「日本の自衛隊はいっそサンダーバードに名前を変えてしまえ！」などと涙目になりながら、私は秋葉原駅までTXに揺られてゆきました。

（会長 熊谷）